

薬剤部 DI ニュース

リンゼス錠について

リンゼス錠 0.25mg (一般名；リナクロチド)

- 効能・効果「便秘型過敏性腸症候群」
- 用法用量：通常成人にはリナクロチドとして 0.5mg を 1 日 1 回**食前**に内服
- 症状により 0.25mg へ減量



◇ 作用機序

本剤はグアニル酸シクラーゼ C (GC-C) 受容体アゴニストであり、腸粘膜上皮細胞に発現している GC-C 受容体へ局所的に作用します。GC-C 受容体は活性化することにより腸液分泌が亢進(便を柔らかくする)し、腸管輸送能が促進されることで排便を促します。

また知覚神経に対して抑制的に作用し、大腸痛覚過敏を抑えることで、過敏性腸症候群 (IBS) における腹痛・腹部不快感が改善すると考えられています。

◇ 過敏性腸症候群 (IBS) とは

「腹痛あるいは腹部不快感とそれに関連する便通異常が慢性もしくは再発性に持続する状態」と定義されます。なかでも便秘優位なものが**便秘型 IBS**となります。

IBS の薬物療法は、亢進した腸管運動の抑制・腸管の刺激に対する過敏性反応の抑制が治療の中心で、抗コリン薬、整腸剤、消化管運動機能改善薬などを用います。例として、ポリカルボフィルカルシウム (商品名：ポリフル) で糞便の物理的性質を調整し、必要に応じて消化管運動調整薬としてトリメブチンマレイン酸塩 (商品名：セレキノン) などが用いられます。**便秘型 IBS** に対しては、主に浸透圧性下剤や刺激性下剤が用いられますが、既存薬では得られなかった腹痛・腹部不快感などの症状軽減につながる薬剤として本剤が選択肢となってきます。

◇ 代謝・薬物相互作用について

ほぼ体内に吸収されず、消化管内でアミノ酸へ代謝され、生体内で再利用されると考えられています。吸収されないため、薬物相互作用の影響も受けません。

◇ 食事の影響について

食前投与に比べ、食後投与した時には反復投与による薬力学的な変化が大きく、下痢・柔便の発現率が高かったため**食前 (空腹時) 内服**と統一されています。

